

サチユタカA1号の栽培実証結果概要

県内大豆産地において、大豆経営体の協力を得て実証圃を設置し栽培特性を把握することで普及性を検討しました。設置個所数は、令和2年は6普及センターで7か所、令和3年は9か所です。

播種時期と開花期、成熟期の関係は、6月中下旬の播種で7月末から8月上旬に開花期となり、成熟期は10月下旬から11月上旬でした。7月下旬の遅播きでは、8月下旬に開花期となり、11月上中旬に成熟期となりました（表1）。6月中下旬播種では、裂莢は、成熟期から1か月を経過するころから見られ始め、「サチユタカA1号」は11月下旬ころから裂莢が始まります。

収量については、早播き時に坪刈りで概ね200kg/10aを超える収量を得ました。一部で実施された7月下旬の播種でも収量を確保できました。また、同時期に播種した「フクユタカ」と比べ同等以上の収量を得ることができました（図1）。

令和2年はカメムシ類の加害によると考えられる青立ちが多くの実証圃で見られたため、令和3年の実証では、2回以上の防除で徹底的に対応したところ、被害を軽微に抑えることができました。フクユタカと比べて早播き大豆では、カメムシ類の加害が集中しやすいため、適期を逃さないように2回以上の防除が必要と考えられました。一方で「フクユタカ」は蔓化により青立ちが目立ちました（図2）。

倒伏については「サチユタカA1号」では目立たず、「フクユタカ」に比べて耐倒伏性は高いと考えられました。ただ、最下着莢位置が低くなる傾向があるので収穫作業では注意が必要です（図2）。

表1 サチユタカA1号、フクユタカの播種期、開花期、成熟期の関係

	6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
サチユタカA1号	●	●	●				★									■	■	■
フクユタカ				●	●	●	★									■	■	■

●:播種期 ★:開花期 ■:成熟期

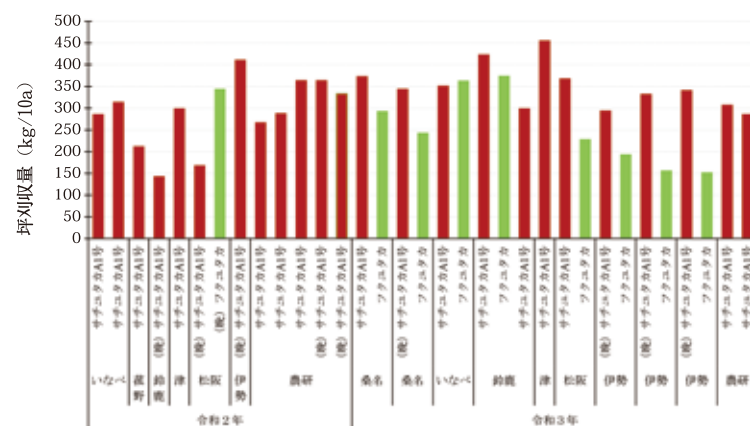


図1 坪刈り収量[赤：サチユタカA1号、緑：フクユタカ]
(坪刈り収量は機械収穫より収量が高くなる)

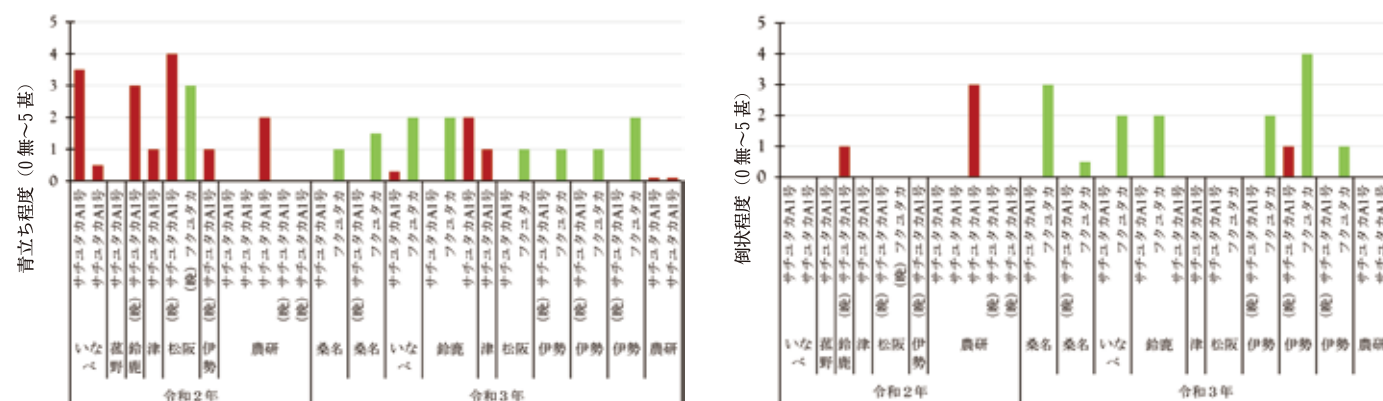


図2 青立ち(左)と倒伏(右)の状況[赤：サチユタカA1号、緑：フクユタカ]

このリーフレットは、持続的生産強化対策事業推進費補助金等(生産体制・技術確立支援)成果物です。

問い合わせ先

三重県中央農業改良普及センター 地域農業改良普及センター
http://www.pref.mie.lg.jp/fukyuc/hp/index.htm



6月中旬から播ける大豆 サチユタカA1号 栽培暦



令和4年3月
三重県

月 旬	5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
生育・作業	種子・機械準備			ほ場準備・播種			中耕・培土			開花期			莢伸長期			子実肥大期			黄葉期			成熟期・収穫期		
	ほ場選択 種子消毒 播種機等調整			目皿のサイズに注意			播種後除草剤施用 明渠の設置			播種適期は6月中下旬			中耕培土は雑草対策を中心にし培土は控えめに！			開花後は、カメムシ類防除の徹底 カメムシ類に対する2回以上の防除で高い効果						10月下旬～11月上旬に成熟期となる。難裂莢性を有するが、刈遅れに注意。		
	排水対策、病害虫防除の徹底で青立ちを防ぐ！																							
	 フクユタカ サチユタカA1号 フクユタカに比べて大粒			 培土は控えめに！						 開花期の草姿						 成熟期の姿						 成熟期のサチユタカA1号(左手前)とフクユタカ(右奥) 耐倒伏性は高い		
病害虫対策				種子消毒により 病害虫、鳥害を回避						ハスモンヨトウの発生に注意 ＊予察情報・ほ場の巡回により早期発見・早期防除			開花期後2～3週間が1回目のカメムシ類防除の適期 ＊これまでの実証からは、開花期(ほ場の半分以上の株で開花が始まった時期)の14～20日後の防除で効果が高かった。 ＊2回目以降はカメムシ類の発生状況に応じて2～3週間間隔で行う。											
管理のポイント	排水対策・圃場準備																							
	- 適期に播種が行えるように排水性の良いほ場を選択するのが望ましい。 - 播種～初期生育が梅雨となるため、事前に十分な排水対策を行い適期の播種作業が行えるように準備する。明渠に加えて弾丸暗渠を設置することで排水能力を高める。 - 前作の麦播種前のチゼル深耕も効果がある。																							
	種子準備・播種																							
	- 種子はフクユタカに比べて、大粒であることから目皿式の播種機を使用する場合は穴のサイズに留意する。 - 播種量は、㎡あたり17～20粒程度。 - 栽植密度は条間73cm程度×株間15cm前後の2粒播きを基本とする。 - 百粒重が40g程度の時、必要種子量は10aあたり8kg程度。 - 施肥は慣行「フクユタカ」に準じる。																							
病害虫・雑草防除																								
- 健全種子を用い、病害虫防除、鳥害回避を目的に種子消毒を行う。 - 繁茂が早いのでハスモンヨトウが集中して加害する。病害虫防除所のフェロモントラップの誘殺状況に注意し、ほ場で白変葉が目立ち始めたら有効な剤で防除する。 - 開花期が早く、子実の登熟期間が長くなるのでカメムシ類の加害が問題となる。莢伸長期に遅れないよう防除を行うとともに、以降もカメムシ類の発生に応じて2～3週間の間隔で防除を行う。 - 土壌処理除草剤や中耕で取りこぼした雑草は、草種に応じて選択性の茎葉処理除草剤で除草する。																								
病害虫の発生情報は三重県病害虫防除所 www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/index.htm																								
中耕培土																								
- フクユタカに比べて最下着莢位置が低いので、収穫時の土噛みを防ぐため、培土は控えめに行う。 - 中耕培土はフクユタカと同様に3葉期と5葉期の2回程度でよいが梅雨明けまでは雑草の生育が旺盛なので遅れないように実施する。																								
収穫・調製																								
- 耐倒伏性は高いが、最下着莢位置が低いので、コンバインの刈り取り部の下げすぎによる土噛みに注意する。 - 難裂莢性を有し成熟期以降も莢が弾け難いが、成熟期から1か月程度で弾け始めるので刈り遅れによる減収や外観品質の低下に注意する。																								